

草原植生における植生保護柵を用いたニホンジカ対策

【特徴】

- ・植生保護柵で保護されていない場所は植生の劣化や土壌流出が進行し、植生保護柵の設置がニホンジカから植生を保護する上で有効であることが明らかとなった。
- ・ニホンジカに起因する問題の根本的解決には、植生保護柵による対策のみならず、個体数管理を含めた総合的な対策が必要である。

【活用が見込まれる分野】

県内に点在する草原植生(例えば、大菩薩峠、乙女高原)の保全を考えた際のニホンジカ対策

【成果】

Nagaike T, Ohkubo E, Hirose K (2014) Vegetation recovery in response to the exclusion of grazing by sika deer (*Cervus nippon*) in seminatural grassland on Mt. Kushigata, Japan. ISRN Biodiversity. <http://dx.doi.org/10.1155/2014/493495>

山梨県森林総合研究所資料「草原植生を考える - 檜形山・甘利山の事例 -」

【内容】

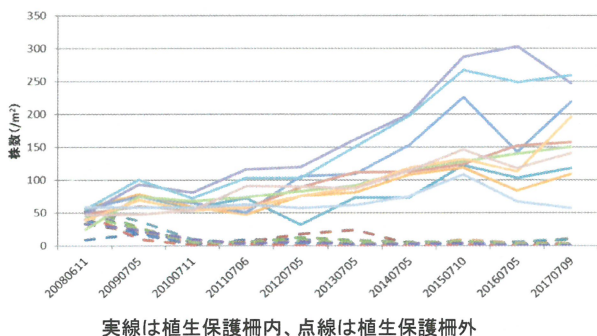
背景

- ・県内に点在する草原は、生物多様性保全上のみならず観光資源として重要
- ・ニホンジカの急増は、草原植生に顕著な影響
- ・檜形山では、ニホンジカの影響により、特にアヤメが激減

植生保護柵の設置は草原の保全に有効か？

- 檜形山で植生保護柵(10×20m)を設置
- 植生保護柵内と植生保護柵外の10ヶ所ずつでアヤメの株数を調査

植生保護柵内では、アヤメが回復



保護すべき植生がある場所 → 植生保護柵設置は有効
ニホンジカに起因する問題の根本的な解決には捕獲を含めた総合的対策が必要

お問い合わせ先 山梨県森林総合研究所 TEL 0556-22-8001